

国際ワークショップ
【北極域の渡り鳥を日本で守る】
のご案内

日本を含む東アジアは、北極域の渡り鳥にとっても重要な渡りルート（フライウェイ）となっています。そこで、北半球最大の渡り鳥繁殖地であるシベリアから研究者をお招きし、主要な渡り鳥の生息・保全状況と今後の課題について情報交換の場をもちます。
～講演は日本語（日露逐次通訳あり）、参加無料・申込不要です、ぜひご参加ください～

日時：2月24日（土）13時30分～17時30分（懇親会要申込）

場所：北海道大学「遠友学舎」（札幌市北区北18条西7丁目）

主催：北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター(CNH)

共催：北大北極域研究センター(ARC-HU)

予定内容(全て仮題・敬称略)

<基調講演>

- ・「渡り鳥とアイヌ」
郷右近 富貴子（阿寒口琴の会）
- ・「北極情勢と渡り鳥保全～日本に期待されていること」
井出 敬二（北極担当特命全権大使）

<シベリアから>

- ・「シベリア鳥類相の変遷と保全の現状」
Arkadii Isaev（ロシア科学アカデミー凍土圏生物問題研究所）
- ・「サハ共和国におけるツル類の保全と国際協力の現状」
Mariia Vladimirtceva（ロシア科学アカデミー凍土圏生物問題研究所）

<東南アジアから>

- ・「東南アジアにおける渡り鳥と人の関係」
Scott Simon（カナダ・オタワ大学人類学部）

<日本から>

- ・「雁と人の関係再生の道～雁の里親友の会がめざすこと」
池内 俊雄（雁の里親友の会）
- ・「西南日本におけるツル類の生息状況と保全上の課題」
増山 雄士（山口県周南市教育委員会）
- ・「渡り鳥調査における国際協働の重要性」
澤 祐介（バードライフ・インターナショナル東京）

<総合討論>

- ・コメンテーター： 長谷川 理（EnVision環境保全事務所）
近藤 祉秋（北大アイヌ・先住民研究センター）

*企画・進行：立澤史郎（北大文学研究科/CNH/ARC-HU） *日露通訳：塚田 力

問い合わせ(メールのみ)： serow@eis.hokudai.ac.jp（立澤）

